

2023年8月16日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概要

歩行名称	東北西9（小泊支所～青森駅）
歩行区間	スタート地点：JR青森駅 ゴール地点：中泊町小泊支所
実施期間	2023年4月19日（水）～4月26日（水）
全歩行距離	109Km

2. メンバー表

No	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	66	6日	ワングルOB24期
2	記録	芳森 佳子	71	6日	大阪府立大ワングルOB
3	運転・記録	笠井 浩	61	6日	坂本徹の所属山岳会OB
4	記録	笠井 初子	64	6日	坂本徹の所属山岳会OB
5	記録	味沢 俊治	67	6日	坂本徹の大学1期先輩
6	記録	坂本 和子	60	6日	坂本徹の所属山岳会OB
7	協賛参加：歩行サポート・運転	成田 茂則	78	6日	青森勤労者山岳会運営委員長
8	協賛参加	對馬 淑子	74	5日	青森勤労者山岳会会員
9	協賛参加	辻村 眞佐子	75	5日	青森勤労者山岳会会員
10	協賛参加：運転	横垣 成年	63	2日	青森勤労者山岳会会員

3. 歩行の概要（4月20日青森市 日の出時刻4時51分 日の入時刻18時22分）

	月 日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	4/19（水）	東京駅発9:36（はやぶさ13号）⇒新青森駅12:34着12:47発⇒青森駅12:53着 青森駅着後、ホテルに荷物を預け弘前さくらまつりへ 夜桜見物後、青森のホテルに戻る		
2	4/20（木）	JR青森駅8:14発＝（JR津軽海峡線）⇒JR郷沢駅8:42着 JR郷沢駅（海岸線歩行）→JR青森駅	20.4km	メンバー表記載の6人と協賛参加3人（成田、對馬、辻村）

8日目(4月27日味新 昼食代:ランチとコーヒー)1,220円/人
飲食代の合計10,170円~16,220円

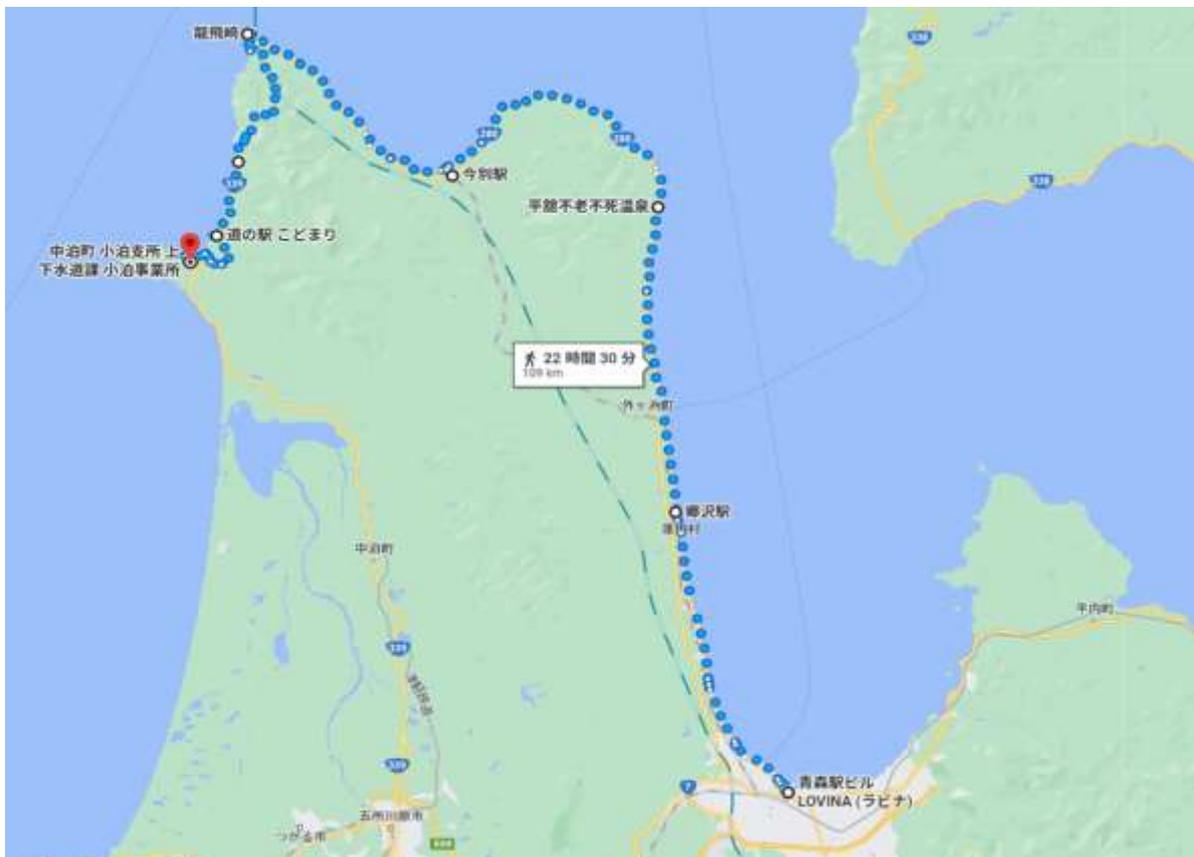
- ⑤ 入場料 3,470円
青函トンネル記念館1,500円、弘前城3施設共通520円、ねぶた村600円
小説「津軽」の像記念館200円、
立佞武多の館650円
- ⑥ 資料・通信代 1,000円
- ⑦ 報告・写真記録集 1,500円
- ⑧ コロナ抗原検査キット代 300円
- ①~⑧の総計 86,565円~96,215円程度(地域クーポンからの充当額を含む)

(3) 参考:全国旅行支援による宿泊費等軽減額(一人当たり) 16,280円

- 宿泊料金の割引総額(ホテルサンルート青森を除く) 9,280円
- ・ホテル竜飛 2,860円
 - ・ペンションだいば 1,920円
 - ・竜飛旅館 2,200円
 - ・温泉旅館中野 2,300円
- 地域クーポン受取総額 7,000円
2,000円×3泊+1,000円×1泊=7,000円
⇒地域クーポンは宿泊した旅館・ホテルの飲み物代、お土産代などに使用

5. 歩き方

(1) 歩行ルートの概要地図





今回歩行のゴール地点の中泊町小泊支所にて



1日目の歩行を終えて、青森駅前の広場にて青森ベイブリッジを背景にして

(2) 歩行方法と班編成

- ① 歩行の効率化のためレンタカーと協賛山岳会参加者のマイカーを利用しました。
- ② 全員が青森駅から中泊町小泊支所までの109 km（参考：第1回歩行131 km、第1回歩行94 km）を歩行しました。
- ③ 歩行1日目は、JR津軽海峡線を利用して目的地のJR郷沢駅に移動し、郷沢駅から青森駅に向かって逆方向に歩行しました。2日目から6日目は、目的地点に車1台を配車し、全員で出発地点から目的地点に向って歩行しました。目的地点到達後に出発地点にある車1台を回収し、目的地点に戻って2台の車に全員乗車し、宿舎に移動しました。
- ④ 地理院地図と現地の状況から歩行可能な砂浜・岩礁海岸などを歩きました。
- ⑤ 歩行ルート上にある名所旧跡に立ち寄りしました。
- ⑥ 宿舎出発は8時00分、歩行終了は15時～16時を目途（名所旧跡立ち寄り時間を含めて1時間約3 kmの歩行速度）として行動しました。

6. リーダー報告：坂本 徹

(1) 第3回歩行のコンセプト（企画・実施にあたって）

- ① 第1回歩行は実施期間7日間（うち歩行日数は5.5日）で、131 km歩行（初日は移動と青森市内観光、2日目から6日目は1日18 km～26 km歩行、7日目午前12 km歩行して午後新青森駅に移動・帰途に）しました。1日の歩行距離が長くて余裕がなかったとの参加者意見を踏まえて、第2回歩行は実施期間1日増として8日間（歩行日数は6日間）の日程としました。

今回第3回歩行は、第2回歩行と同様に1日の歩行距離を20 km程度としました。また、歩行日数は5.5日としました。各日の歩行区間・距離は、現地での歩行状況から前日に柔軟に設定変更を行う計画でした。雨天や歩行区間変更などにより、ゴール地点に到達できない場合は、次回以降の歩行に繰り越しとしていましたが、結果として天気にも恵まれて、計画どおり歩行できました。



弘前城さくらまつり 外濠のライトアップされた桜と花筏

- ② 初日午後と7日目午後と最終日（8日目）は、観光・名所旧跡巡りを行い、歩行は実施しない計画としました。初日は弘前城さくらまつり、7日目午後には太宰治記念館「斜陽館」、亀ヶ岡考古資料室、岩

木山麓にある「世界一の桜並木」、岩木山神社、最終日は木造駅舎、立佞武多の館、津軽藩ねぶた村を巡りました。

- ③ 初日の東京駅発車時刻（9時36分）と最終日の東京駅到着時刻（20時04分）は、参加者の居住地（松本市、甲府市）を当日出発、当日帰宅できる時間を考慮して設定しました。
- ④ コロナ感染防止対策として、お互い安心安全に交流できるように、抗原検査キットによりコロナ抗原検査（自身で検査を実施して所要時間10分程度で結果判明）を歩行実施初日に行い、陰性確認をしました。

（2）第3回歩行を実施して

東北西海岸線（青森県第3回）歩行は、第1回・第2回歩行と同様に、青森勤労者山岳会の協賛により青森県海岸線踏破プロジェクト（第3回歩行）として実施しました。

歩行参加者は全員第1回・第2回歩行経験者であり、歩事情を理解されていることからスムーズな行動ができました。また、お互い気心が知れた関係であるため、更に交流を深め合いました。

今回歩行したルートは、私が青森市居住時に幾度か車で通行しましたが、歩行目線で見ると美しい海岸線風景が数多くあり、私にとって青森県の再発見となりました。

龍飛崎は津軽半島の最北端で、津軽海峡へと突き出た岬ですが、海から吹いてくる風の強さは風力発電に利用されるほどであり、改めて風の強い地域であることを体感しました。更に厳しい自然条件のため過疎化が進んでいることも実感しました。

なお、宿泊したホテル・旅館は2か所を除いて全国旅行支援割を利用できました。また配付された全国旅行支援の地域クーポンは、宿泊した旅館の飲み物代、飲食店での夕食代、お土産代などに利用して、経費削減ができました。



弘前公園の桜と岩木山

7. 歩行の詳細

（1）1日目：4月19日（水）天気：曇りのち晴れ 記録：坂本 徹

東京から青森に移動、青森到着後弘前さくらまつりの弘前公園を散策と夜桜見物

東京駅発9時36分はやぶさ13号で新青森駅に向かう。東京駅からは芳森佳子さん、味沢俊治さん、坂

本和子さん、坂本徹の4名が乗車、大宮駅から笠井初子さんが乗車した。昼食は駅弁などを購入し、各自車内で済ませた。

定刻どおり新青森駅12時34分に到着、奥羽本線12時47分発に乗り換えて青森駅12時53分に到着。青森駅改札口にて高速夜行バス利用で9時過ぎに青森入りしていた笠井浩さんと合流した。

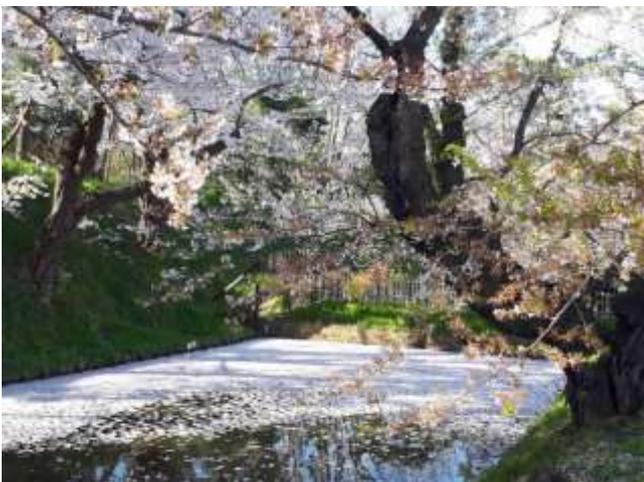
ホテルに荷物を預けて、青森駅13時34分発の電車に乗車して、弘前駅14時20分に到着した。駅前から整備された歩道を進み、弘前公園に着いた。弘前城の外濠には花筏ができていた。弘前さくらまつり期間は4月21日(金)～5月5日(金)であるが、桜の早咲きのため準まつり体制期間4月15日(土)～4月20日(木)が設定されていた。



弘前城と枝垂れ桜



ライトアップされた弘前城と枝垂れ桜



弘前城外濠の桜



ライトアップされた弘前城外濠の桜

夜間ライトアップは4月14日から開始、出店や西濠ボート、中濠観光舟などは15日から営業されていた。弘前さくらまつり散策モデルコース(所要時間2時間)に沿って散策した。夕食は、弘前駅から弘前公園に向かう往路の途中にあった飲食店「個室居酒屋山善」に戻って2300円の花見コースを注文して飲食した。飲食後は、再び弘前公園に戻って夜桜見物をした。ライトアップされた桜と外濠の花筏、弘前城と桜など、見事な夜桜風景であり、桜まつりを堪能した。弘前駅20時31分発青森駅21時17分着の電車で青森市のホテルに戻った。



弘前駅構内の「つがにゃん」にて

(2) 2日目：4月20日(木) 天気：晴れ

記録：芳森 佳子

J R郷沢駅—<20.4km>→J R青森駅

今日は車利用しないで、全員でJ R郷沢駅に移動し青森駅まで歩行した。J R津軽海峡線青森駅8時14分発→郷沢駅8時42分着。その列車の中で今回もずっとご一緒頂ける青森労山の成田茂則さん、そして昨年も参加くださった對馬淑子さん、辻村眞佐子さんと合流。郷沢駅で改めて再会の挨拶とミーティングを行い、青森労山の方々はコロナ抗原検査を済ませた。私たちは人数が増え賑やかになった嬉しさに加え、青森の言葉(津軽弁)を聞いて一気にテンションアップ!



出発前にJ R郷沢駅にて

9時10分 今日の空のように、晴れやかな笑顔で元気に郷沢駅を出発した。

9時50分 蓮田村の正法院境内にて休憩。するとご住職が出てこられ、お寺の中を案内して下さいました。漫画家の武井宏之さんはこの蓮田村出身で、本堂には円空上人の立派な彫刻の仏像が並ぶ中「シャーマンキング」コーナーがある。ご住職は、蓮田村の発展の手段として「アニメやドラマによる町おこし」的なものを思い描いておられたようだ。



正法院の「シャーマンキング」コーナー

11時00分 後潟神社境内にて休憩。

12時10分~30分 内真部の堰堤にて海を眺めながら昼食。その後5分ほど砂浜を歩いていると、浜に面した家から出てきたおじさんが、海に一步入ったかと思うと、大きな昆布を驚づかみにして「美味しいから持ってけ、持ってけ!」と。もちろん頂いたのはお気持ちだけ。



八甲田山に向って砂浜を進む



八甲田山の遠望と海鳥



近づく八甲田山と青森市街を見ながら堤防を進む

13時15分 豊漁の鯺の出荷作業中とかで活気溢れる奥内漁港。

14時40分 成田さんのお陰で、贅沢にも青森に来るたび美味しくご馳走になっている「田酒」の醸造元の西田酒造店がある油川大浜は、かつて津軽半島東海岸一帯で最も栄えていた港であった。漂ってくる芳香に一同ウットリする。その後急に風が強くなり、ひたすら青森ベイブリッジを目指し、15時50分ようやく到着。青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を背景に集合写真を撮り、16時00分ゴール地点の青森駅に到着。



青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を背景に

その後、飲食店「笑笑青森駅前店」にて夕食&交流会。海鮮がメインの海鮮陶板焼きコースで海の幸を味わいながら和やかに歓談した。

(3) 3日目：4月21日(金) 晴れ 黄砂・風強し 記録：笠井 浩

JR 郷沢駅—<20.4km>→旧平舘中学校跡地

8時00分 青森駅近くのオリックスレンタカー前集合。成田さんら青森組とも合流。レンタカーと成田車でJR郷沢駅へ。駅前で準備をしていると昨日乗ってきた列車がやってきた。

先発組8時53分出発。坂本・笠井は本日のゴール地点の平舘(たいらだて)の旧平舘中学校跡地(現在緊急



避難場所に指定)に車を置きに行く。郷沢に戻り蓬田漁港に車を停めて9時44分出発。

先発組、後発組それぞれ玉松台の「たままつ海の情報館」に立ち寄る。玉松海岸の模型や、大型離岸堤の役割が分かりやすく解説されたパネルなどが展示されていた。青森港から続く海岸の護岸整備の歴史がよくわかった。海岸は護岸で固められていてやや興ざめであるが、住人たちにとっては待望の護岸だったことだろう。砂浜は少ないが、玉松台近くの扇状の海岸地形は離岸堤により人工的につくられたもの。また海辺でよく見る白黒の海鳥はコクガンだった。

11時過ぎ蟹田漁港の手前で先発組と後発組が合流。

11時30分 蟹田港の「風のまち交流プラザ トップマスト」で昼食休憩。風のまちというのは、太宰治の『津軽』の一節から取ったものか。風をテーマにした椅子があった。確かに風が強い。蟹田港からむつ湾フェリーが下北の脇野沢間を結んでいる。戦後津軽線が開通するまではもっとにぎやかな港だったに違いない。



スタート地点の郷沢駅にて



風のまち交流プラザ トップマスト



風をテーマにした椅子

昼食後、道路をはさんだ向かいの標高 38.5m の観瀾山 (かんらんざん) に登った。太宰治がお花見をした山である。展望良好で、太宰治の文学碑、石仏群、蟹田台場跡の碑などがあつた。石浜から塩越まで旧道を歩いた。途中松前街道の石碑あり。平館磯山 (地形図では電波塔の地図記号のあるところ) で海岸歩きと車道歩きの二手に分かれた。海岸は護岸伝いにさしたる困難なく踏破。この辺り対岸に白く仏ヶ浦が見えたかと思つたが、位置的に見えるはずはなかつた。



太宰治の文学碑



松前街道の石碑

15時35分 旧平館中学校跡地到着。蓬田漁港に車を取りに行ったのち今夜の宿泊地、龍飛岬先端の「ホテル竜飛」へ。



2018年度に閉校した平館中学校の正門前にて

閉校記念碑、閉校時点の生徒数は17名

17時25分 ホテル着。一日寒風のなかを歩いた後の温泉は温かく格別でした。18時30分 夕食。刺身など料理もうまかった。今晚の交流会のお題は「自分の健康法」。成田さん差し入れの「田酒」を味わいながら語らう。



ホテル竜飛の夕食料理



朝食料理

(4) 4日目：4月22日(月) 天気 曇り一時雨 記録：味沢 俊治
今別町役場—<21.0km>→旧平館中学校跡地



出発前に「ホテル竜飛」の玄関前にて



歩行スタート地点の今別町役場にて

歩行3日目は、今別から平館まで国道280号、かつての松前街道を時計回りで南下する。平館村は周辺町村と合併し、2005年に外ヶ浜町となった。成田さんによれば「合併に入れてもらえなかった」のが今別町。役場を7時57分に出発。太宰治『津軽』でMさん宅と記された薬局が町はずれの廃屋となっている。



町はずれの廃屋となった薬局

今別川をわたり浜に出ると与茂内の先に海食洞（松陰くぐり）が見えるが、先発組は通過を断念、道路で500メートルほどすすむ。その後、私が単独で浜に下り洞窟の出口まで逆行し、通過可能と確認。連絡を受けた後発組は海食洞をくぐり岩礁海岸の歩行を継続。



先発組は通過断念、後発組は通過した海食洞（松陰くぐり）



岩礁海岸の絶景

海岸線から見た絶景

10時55分 鑄釜崎の海に突き出た海岸段丘上のコンクリート展望台に全員が立つ。

11時05分 海岸に通じる道から私と辻村さんが浜まで下りる。息をのむ岩礁海岸の絶景だが歩行継続は困難で、襲月海岸の段丘上の道路歩行に戻る。



海岸段丘上のコンクリート展望台にて

息をのむ岩礁海岸

11時30分 褒月海雲洞釈迦堂で般若心経。続いて高木恭造の顕彰碑。「この村サ一度だて陽コあだたごとあるガジャ」と褒月村を詠んだ青森の眼科医のもの。伊奈かっぺいより先がけて津軽弁の詩を残した。高野崎の手前で後発組と合流し、キャンプ場となっている岬で昼食。



褒月海雲洞釈迦堂で般若心経を唱える



褒月村を詠んだ青森の眼科医「高木恭造詩碑」

12時00分 猛烈な風のなか、坂本さんの先導で岬の崖を下り、岩礁を結ぶ二つの赤い太鼓橋を渡る。滑り止めもあるが、強風で体の安定をはかりにくい。そのあとはひたすら道路を歩行。



高野崎灯台から階段を降りて磯に出る、岩礁を結ぶ「潮騒橋」と「渚橋」まで行った

14時45分 日蓮宗宇田山聞法寺に寄る。14世紀の開山時に大漁だったので宗派名にちなみ「ほっけ」という魚名がついたと寺碑にある。新しい本堂は、土石流が襲ったのちに再建されたものか。隣には屋根から下がつぶれた家屋がそのままある。その村の先の「頃々川」(ゴロゴロ川)を渡る。その後、松の防砂林に守られた水田に沿って海岸道路をひたすら南下し、平館灯台のそば「ペンションだいば」の前を通過して、16時29分目的地平館中学校跡に到着。



日蓮宗宇田山聞法寺



国道 280 号は旧松前街道



全国的にも珍しい国道沿いに立つ灯台



「ペンションだいば」から提供された無料入浴券を使用して、町営施設の「湯ノ沢温泉ちゃぼらっと」で入浴した。「ペンションだいば」に戻り、チェックイン。ここは、幕末に弘前藩によって砲台（平館台場）がつくられた場所であるが、『ペンションだいば』の「だいば」は、『平館台場跡』の「だいば」より名付けられた。夕食は、地元の食材をより多く使用したものであったが、当店名物のいかハンバーグは美味であった。



旧平館中学校跡地近くの湯ノ沢温泉入浴



夕食の料理、左下が名物のいかハンバーグ

(5) 5日目：4月23日（日）天気 晴れ 記録：成田 茂則
今別町役場前 -<20.9 km>- 龍飛崎



出発前に「ペンションだいば」の前にて

坂本さん・笠井さんが車回送のため出発後、準備体操をして8時30分今別町役場前を出発する。松前街道（国道280号線）を歩き、すぐに海岸線に入る。段差のある防波堤、砂浜を歩く。



スタート地点の今別町役場にて



海岸線に下りて進む



砂浜を歩く

坂本さん・笠井さんより9時20分出発したとのライン入る。9時50分小休止。

10時00分 義経寺へ上る。味澤さんは般若心経を唱える。10時20分義経寺を発ち、厩石、義経海浜公園へ、甲岩を見る。



浄土宗の寺で龍馬山義経寺



源義経渡海伝説の地の解説

10時40分 今夜の宿「龍飛旅館」に昨年泊まった笠井初子さん挨拶に寄る。

10時50分 幕末の志士、吉田松陰が歩いた「みちのく松陰道」の入口算用師を通過。

11時30分 坂本さん・笠井さんが追いつく。

12時00分 トイレのある駐車帯で昼食休憩。

向かい風を受けながら進み、13時30分 太宰治・棟方志功ゆかりの宿「元奥谷旅館」、現在は竜飛崎観光案内所「龍飛館」に入り、太宰の部屋、志功の部屋等を見る。



「元奥谷旅館」 現在は観光案内所「龍飛館」



太宰治の文学碑 碑文には小説「津軽」の一節

14 時 15 分 階段国道として名高い国道 339 号を上がる。



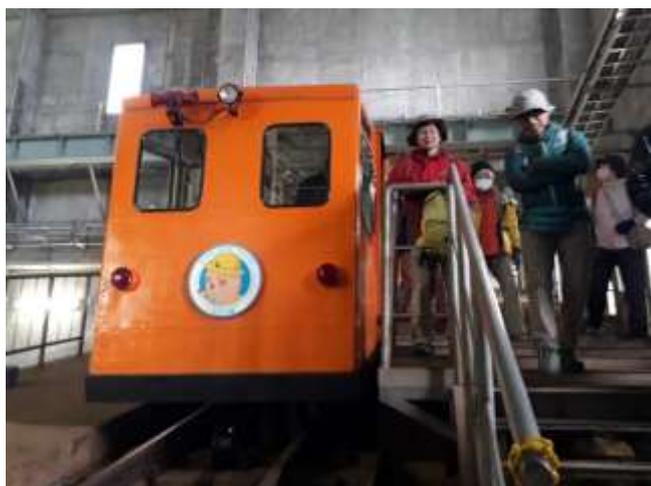
階段国道 339 号を上がる前に、竜飛崎の北にある帯島の竜飛弁天宮へ
14 時 35 分 龍飛崎到着、記念撮影、石川さゆりの津軽海峡冬景色を聞き、若かりし頃を思い出す。



津軽半島竜飛崎の標柱を囲んで

津軽海峡冬景色の歌謡碑にて

青函トンネル記念館へ車で移動し、15 時 40 分発のトンネル龍飛斜坑線を待つ間、記念館内を見学しビデオを観る、トンネル作りにかかる男たちの心意気を感じる。
そして、海面下 140m の別世界を堪能する。



7 分で「青函トンネル竜飛斜坑線 もぐら号」が海面下 140m へ 壮大なプロジェクトを体感
坂本さん・笠井さん達は車の回収に出発、残った 4 名はホテル竜飛でコーヒーを飲み、ほっと一息、青函トンネル内を新幹線が通る音を聞く。

17時00分 笠井さんが迎えに来てくれ、17時40分 龍飛旅館に着く、横垣さんと合流。
18時30分 夕食交流会、至高の時を過ごす。

(6) 6日目：4月24日(月) 天気 晴れ 記録：笠井 初子

龍飛崎-<20.3km>-道の駅こどもり

6時30分 朝食。龍飛崎へ車で移動し、8時15分 龍飛崎出発。



出発前に龍飛旅館にて



スタート地点の龍飛崎標柱にて

後発組の坂本徹さん・笠井浩さんは、道の駅こどもりに車を置きに出発。先発組は海岸に下りて岩場を左側に曲がった途端に、台風のような突風に出くわす。岩場の足場は崩落している箇所もあり歩きづら
いが、海岸は木製の遊歩道が作られて大きな屏風岩と海辺が美しい。立派な石の階段も作られていた。



龍飛崎から海岸に下りて、日本海の海岸線を進む

キャンプ場管理人室 8 時 50 分着。管理人室への登り階段下近くには温泉が湧いていた。青函トンネル工事が影響しているかもしれない。坂を降りて道路に出る。



温泉が湧いていた



階段を上がる

青函トンネル記念館 9 時 10 分着。トイレ休憩をする。後発組はキャンプ場から龍飛崎石川さゆりの歌碑に出てしまったようだ。龍泊ライン 339 号あじさいロードの看板(眺望台まで 5 キロとある)を見る。ひたすら登り坂を歩く。道路脇の山菜を成田さんから教えていただいた。初めて見たセンの木(木はタラの芽のようなトゲがあり、葉はこしあぶらに似ている)を収穫する(成田さんや皆さん収穫して下さり、翌日の宿でてんぷらにしてもらい頂く)。



山菜を収穫した成田さん



眺望台の下のトイレ建物近くで昼食休憩

後発組と合流、10 時 30 分休憩。眺望台の下、トイレの建物近くで風を避けて昼食とする。

12 時 20 分 出発。眺瞰台の碑にこの道路は 1957 年自衛隊によって作られたとある。今度はひたすら下る。丸いブロッコリーのように見える新緑の木々が、色とりどりで美しく爽やかだ。

坂を降りきり、橋を渡って休憩 13 時 25 分。坂本台の看板 13 時 40 分着。ここで海岸に降りて歩く組と道路を歩く組とに分かれる。道路組は一の坂を降り、傾り石(かたがりいし)まで行く 13 時 45 分着。みちのく松陰道 14 時 15 分着。海岸組が来るのを見渡せる橋の下に降りて待つ。親心のような気持ちで

海岸を歩くメンバーを見つめていた。海岸組はルートを探しながら全員元気良く海岸線歩行を楽しんで14時45分道路組と合流する。



新緑の木々が色とりどりの景色を見ながら、眺瞰台からひたすら下る



海岸に降りて歩く組が通過したルートの様子、一部三点支持で慎重・安全に通過



難所を無事に通過して

歩行してきた岩礁海岸を振り返る

七つ滝 15 時 00 分着。道の駅へ 2 キロ地点で休憩して道の駅こどもりに着 16 時 00 分。ここでお土産など購入後、成田さん・横垣さん・笠井さんが車を取りに行く。他は休憩となる。



七つ滝



道の駅こどもりに到着して

車 3 台で道の駅発 17 時 20 分。柏ロマン荘着 18 時 20 分。夕食 19 時 20 分。柏ロマン荘の部屋は広く暖かく快適でした。夕食では海岸組の皆さんの奮闘ぶりが話題に出ていました。また津軽弁を教えてくださいました。「すつもつ(ぐずぐずする)」「おべだふり(知ったかぶり)」など楽しく教えてください、勉強になった。健康法や今日の感想など話題が多く、皆さん充実した一日でした。

(7) 7 日目：4 月 25 日 (火) 天気 晴れのち曇り 記録：坂本 和子

道の駅こどもりー<6.1km>→中泊町小泊支所

朝食を済ませ、8 時 00 分 柏ロマン荘を出発。



出発前に柏ロマン荘前にて



道の駅こどもりのレストランを背景に

今日は、本来なら昨日のゴール地点の「道の駅こどもり」から出発予定だったが、歩行距離が 6.1km と短く、又昨日は時間が押しすぎてしまい後半は車道歩きとなってしまったため、昨日のゴール地点より 1 km 程手前の地点から砂浜を歩くことになった。

その前に、9 時 20 分「小説『津軽』の像記念館」に立ち寄る。タケと太幸が小説の最後で再会を果たした場所である。



小説「津軽」の像記念館



小説「津軽」の像

9時50分 見学を終え、10時00分 道の駅に車を置きに行った坂本徹さんを除く9人で、スタート地点となる男岩沢の橋から海岸に下りる。押し寄せる波打ち際スレスレの砂浜を進み、途中岩伝いに歩きながら再び砂浜に出ると、10時40分 折腰内海水浴場である「道の駅こどもり」に到着。ここが昨日のゴール地点で、坂本徹さんとも合流、1人ずつ写真撮影をして10時50分出発。



折腰内海岸の砂浜を進む



海岸にあった標柱

ガラガラした岩場を進み、途中でワニの骨のような遺骸を見たりして、小さな出っ張りを回り込む。山側を見上げると高い所にいくつかの大きな穴があり、後で地図を見てみると「七ツ石崎台場跡」だったのかもしれない。



ガラガラした岩場を進む



ワニ(?)のような骨を前にして撮影

10時30分 茶色い地層が斜めに走っている辺りで10分間休憩。マリパーク海水浴場の建物や、西に突き出した小泊岬がすぐそこに望める。

その後は、ツルツルとしてギリギリの足場しかない岩の上を渡り、大量にゴミが打ち上げられている砂浜を過ぎると、12時00分 マリパーク海水浴場に到着し休憩。



茶色い地層が斜めに走っている海岸線を歩く

マリパーク海水浴場に到着直前

そこから程なく小泊漁港近くにある小泊支所に12時49分到着し、今回の海岸歩きの最終ゴール完歩を皆で喜び合う。



中泊町役場小泊支所



最終ゴール地点の小泊支所にて

ここで帰宅する青森組の横垣さん、對馬さん、辻村さんとはお別れとなる。



横垣さん達をお見送りする



斜陽館前にて

この後は車2台に分乗して、14時10分～14時50分 太宰治記念館「斜陽館」
15時17分～15時55分 亀ヶ岡考古資料室、16時44分～17時15分 岩木山麓にある「世界一の桜並木」のオオヤマザクラを見ながら散策する。



岩木山麓にある「世界一の桜並木」のオオヤマザクラと岩木山を背景にして
17時20分～17時50分 岩木山神社を参拝して、神社の鳥居前にある中野旅館に到着する。



岩木山神社を参拝

開運招福を祈願

成田さんの交渉のお陰で、前日道々で採ったタラやセンノキの芽を旅館で天ぷらにして頂き、夕食時皆で美味しく味わうことが出来た。



神社の鳥居前にある中野旅館

美味しい料理にタラやセンノキの芽の天ぷらも並んだ

(8) 8日目：4月26日(水) 天気 雨時々曇り 記録：坂本 徹
温泉旅館中野⇒木造駅舎⇒立佞武多の館⇒津軽藩ねふた村⇒新青森 (16時38分発で帰途へ)
8時10分 温泉旅館中野を出発。9時10分 JR 五能線の木造駅に到着。

木造駅舎は、亀ヶ岡石器時代遺跡から出土した遮光器土偶「しゃこちゃん」の形をした迫力ある駅である。土偶本体は、目を点滅させて電車の発着をお知らせする「いらっしやいビーム」で、乗客をお出迎え、お見送りをしている。本駅舎は、特徴ある駅として「東北の駅百選」にも選定されている。

9時40分 五所川原市の「立佞武多の館」に到着。五所川原の夏の風物詩「立佞武多祭」の世界を、年間を通じて楽しめる資料館である。高さ約23メートルの大型立佞武多が展示されており、螺旋状のスロープを下りながらじっくり観覧することができた。展示室の巨大スクリーンの映像・音響効果により、実際の祭りの臨場感を味わうこともできた。



木造駅舎の遮光器土偶「しゃこちゃん」



立佞武多の館入口にて



高さ約23メートルの大型立佞武多

11時50分～13時00分 弘前市内の寿司割烹「味新」で寿司ランチを食べる。

13時20分～14時30分 津軽藩ねぶた村。津軽三味線の生演奏を聴くことができた。弘前の夏の夜を彩る重要無形民俗文化財 弘前ねぶたまつりをはじめ、津軽の民芸品、津軽三味線の生演奏、大石武学流庭園など、津軽をまるごと見て、体験できる施設であった。高さ10mの大型ねぶたと内部の骨組みを見学できる実物大の大型ねぶたが展示されていた。



津軽藩ねぶた村



津軽三味線の生演奏

新青森駅 15時40分着、駅レンタカー新青森営業所で成田さんとお別れとなる。



成田さんをお見送り



706 km走行したレンタカー



レンタカーを返却して店舗前にて



新青森駅に入り帰途へ

新青森駅でレンタカーを返却、レンタカーはホンダシャトル、走行距離は706 kmだった。
 レンタカーを返却し、新青森駅で解散。5名は16時38分発はやぶさ38号に乗車し、帰途についた。
 笠井浩さんは、我々5人を見送ってJRで青森駅に移動、高速夜行バスで帰途についた。

8. 参加者の感想

【芳森 佳子】～念願の生の津軽三味線に大喜び

津軽半島東海岸は海と山の狭間にあって平野部が少なく、集落が海岸部に集中。少ない耕地が様々な風の影響を受け、冷害・凶作に見舞われるばかりか、海難事故、家屋の浸水、波浪侵食によって漁業ばかりでなく、生活までも脅かされてきた長い歴史。今までの海岸線にも増して驚くほど神社仏閣が多い気がするのも頷ける気がする。近年では海岸事業により堤防が整備され、安心して暮らせるようにはなったとは言うものの、何しろ自然環境厳しく廃屋・閉校ばかりが目についた。若い人たちが戻りそうもないこの地、、、いずれ朽ちていってしまうのでしょうか。

弘前城の満開の桜も花筏も楽しめる季節に訪れることができ、念願の生の津軽三味線に大喜びし、楽しい思い出っぱいの今回も、心から皆様に感謝しかありません。ただ想像しかない冬のこの地の冷たい猛烈な強風が思い浮かび、心の隅っこに重苦しい寂しさが巣食ったままになっています。



【笠井 浩】～津軽半島は私にとって思い入れのあるところ

海岸線歩行参加 3 回目。3 回も歩けばいい加減飽きてくるかと思うところですが、どうしてさにあらず常に新しい発見があり感動があります。海岸線のみならず、弘前城の桜は確かに見事でしたし、「津軽海峡冬景色」や津軽三味線の音色は心にしみました。また展示館で見たねぶたは、当日に再訪したいと思わずにはいられませんでした。津軽弁も温かく旅に彩りを添えてくれました（對馬さんのおかげ）。一日歩いた後の食事とビールはあいかわらずうまいし、大勢で歩くのもまた楽しかったです。

津軽半島は私にとって思い入れのあるところで、時の流れを感じる旅でもありました。40 年前に旅したことを思い出し、また太宰治の『津軽』を久しぶりに読み返してみました。40 年前、80 年前に思いを寄せ、その変貌ぶりに何か感傷的な気分にもなりました。

今回、青森までの往復を私だけ高速夜行バスを利用しました。新幹線普通席が平民の乗り物ならさしずめ貧民の乗り物かもしれないが、新幹線は旅の道具としては面白みがありません。かつての夜行列車には及ばないが夜行バスもおおいにありです。

次回も皆さんとの再会を楽しみにしています。



【笠井 初子】～自分も 10 年後、20 年後「元気で歩きたい」

3 回目の青森海岸線歩行に参加させて頂きました。前回の海岸線歩行が終わってから私たち夫婦は、2 日間残って龍飛崎も歩きました。青函トンネルも行きました。今回と同じコースも歩きました。晴れ男の坂本さんと別れたとたんに、雨と寒さと強風の中歩いた所に、寒かった旅館に「また行くのか」と気が進みませんでした。でも 2 回目の竜飛旅館の女将さんとの再会は嬉しく、今回は晴れの中皆さんと楽しく歩かせて頂きました。

宿の食事も美味しく、温泉も気持ち良かったです。特に青森の参加者の皆さんが、明るくて楽しくてパワフルでただただ感心するばかりでした。自分も 10 年後、20 年後「元気で歩きたい」と目標が出来ました。今回津軽弁、津軽三味線、津軽藩ねぶた村、立佞武多の館、太宰治記念館、岩木神社等、また沢山の青森を知る機会を得て、青森がとても親しみやすくなりました。

今回も車を出して下さいました成田さんお世話になりました。青森の皆さん、ご一緒させて頂きました皆さん有難うございました。綿密な計画をして下さいました坂本さんお世話になりました。有難うございました。



【味沢 俊治】～想像力をかきたててやまない地名に出会う

旅の経由地「平館」「三厩」は、かつて陸奥と蝦夷地を結ぶ松前街道の北端の港町でありました。北の海を襲う激しい風浪によって何度も崩壊しながら、1980年代に完成した強靱な護岸により、現在では沿岸集落をつなぐ道は守られるようになりました。そして、青函トンネルを新幹線が抜ける今、その道も旅する人々から遠いものとなりました。

しかし、私たちが出会った地名には、沿岸の道をつないできた人々の営みが、たしかに刻み付けられています。たとえば、海をへだてる砂丘の背後に潟湖が存在したことを示す「後潟」。この村に広々と広がる水田を、砂丘がつくった微高地にある「後潟神社」からながめると、ここがかつて湿地と沼であったことが想像できます。他方、「汐越」には繰り返す襲った高潮とたたかってきた村の苦難の歴史が刻まれています。由来不明の「算用師」。若き長州藩士吉田松陰が沿岸防衛の視察のために、津軽半島を横断したときに越えたのが「算用師峠」でした。想像力をかきたててやまない地名に出会うのも、海岸線歩行の楽しみのひとつであります。



【坂本 和子】～とにかく風が強かった

津軽半島、特に津軽海峡に面した海岸はとにかく風が強かったです。

偶々この時の気圧配置のせいもあったかも知れないが、とにかく尋常ではない風が海から吹き付けて、海は台風のような白波が途絶える事無く押し寄せていました。更に冬の強い季節風を考えると、この周辺に住む人々の過酷さは想像するに余りあるものに違いないです。特に今別町周辺では空き家、廃校になった校舎、倒壊して猶手付かずのままの廃屋が数知れず、ここで暮らし続けることの難しさ、大変さを物語っているようでした。半島内陸部に位置する弘前などはあんなに賑わっているのに、本州最果ての地の寂しさが一層増幅されたように感じた旅でした。



今回は参加者が10人と多くて、とても楽しかったです。余裕が無くて黙々と歩を進めるだけの時間も長かったけれど、先輩たちの示唆に富んだユーモアたっぷりのお話、大いに笑わされ又考えさせられる事も多かったです。又、歩きながら山菜を一緒に探したり、植物の名前や地形や歴史について教えてもらったりと、やっぱり色んな人がいると楽しいなあと改めて実感しました。

【成田 茂則】～風の強さにびっくり！

前回、道の不通情報をチェックせずご迷惑をかけたので、チェックしました。

4月24日通過予定の国道339号線の冬季期間閉鎖区間の一部が、4月25日解除予定でした。早速電話、今年は雪が少なかったので21日解除予定とのこと、安堵しました。

今回感じたこととして、一つ目は強風、「風の岬によろこそ」と宣伝しているだけのことはありました。

龍飛崎からの海岸線を歩いた24日の朝、先頭で岬を回り込んだら、いきなりの風でバランスを崩しそうになりました。その前も松前街道の海岸線を歩く箇所ではウインドブレーカーを離せませんでした。

二つ目は下北地方よりも過疎化が進んでいる、半分以上が空き家の集落がありました。

今回もまた、坂本リーダーはじめ参加者の皆様には親切にいただきました。厚く御礼申し上げます。



【對馬 淑子】～6日間、100 kmを歩き通す

40年以上前の南アルプス縦走以来、こんなに長く歩き続けたことのない私には無理かなとも思ったのですが、『これから先、挑戦する機会は絶対に来ない』と参加をお願いしました。案の定、1日歩くとへろへろになり、明日は歩けるのだろうかと思いました。けれど、夕食時の交流会がそれはそれは楽しくて『明日も頑張ろう』と思い、次の日も晩の美味しいお酒を思い浮かべながら、一步もう一步と歩いて何とかクリアを繰り返して、無事に歩ききる事が出来ました。最終日は前日までの強風も収まって、日本海と晴れ渡った空を眺めながら、小泊までの海岸線を心地よく歩きました。



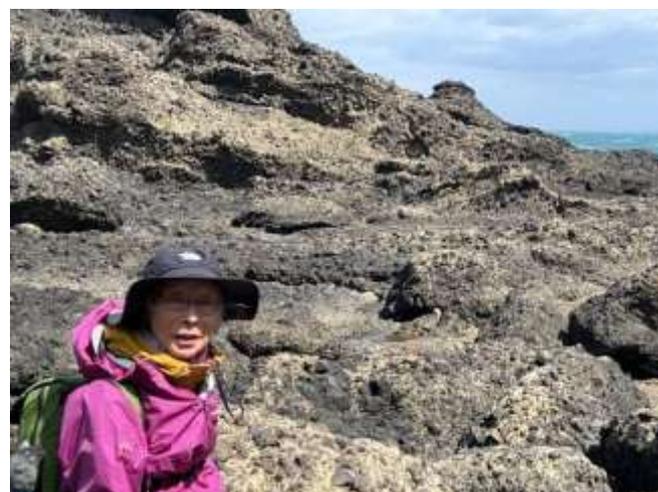
参加して一番感じたことは、皆さんのホスピタリティです。足に不安がある私を気遣い、又、オール津軽弁の会話にも付き合ってくださいました。資料作りから車の送迎、会計に至るまで丸ごとお世話になりました。お陰様で完歩できました。本当にありがとうございました。

【辻村眞佐子】～百 km の歩行

5日間歩き通す事は、自身への最後の挑戦みたいなものです。海岸を歩き、昨日までの事を忘れ自然に浸りたいと望みました。

しかし、単調な歩きや風の強さにこの先が心配になったりもしました。でも、海岸に降りた時は、打ち寄せる穏やかな波、澄み切った青空、浮かぶ白い雲、対岸の下北や北海道の景色などで元気になるります。

龍飛岬海岸では、岩の登り降りに三点確保を頭で繰り返し、やっと道路にたどり着いた時は、心



配して待ってくれた仲間と暗黙の再開でした。歩くのにどうにか慣れた終盤にはお別れが待っていました。

5日間苦勞を共にし、宿では話題も豊富で気持ちよく翌日に備える事が出来ました。車を移動し、後ろに姿が見えた時は驚きました。

疲れたことと思います。ありがとうございます。

【横垣成年】～初めての竜飛

私も竜飛は初めてでした。強い風は下北にないものです。海岸が草地になっている風景も下北にはないものです。北海道の風景に似ています。

竜飛から、坂本台までの海岸歩きができなくて残念でした。帰ってから地図とにらめっこし、今年中に海岸の下見をしようと思っています。請う、ご期待です。

柏ロマン荘での、「自分の健康法」ですが、私は極端な経験を話しました。付け加えると、中1のマラソンどん尻の経験は、今の健康維持の原点です。どん尻のみじめさと同時に、いかに自分は弱い人間か、いかに自分は怠け者か、いかに自分は何もしていなかったかを自覚したのです。どん尻以来、私は定期的にランニングをするようになりました。高校2年からは週1回のランニング。30代からは週に2回運動、1回はランニング4キロ、もう1回は腹筋、腕立て伏せ、スクワットなど汗ばむ程度に行い現在に至っています。筋肉はいじめなければすぐ無くなってしまうという思いで運動しています。

またお会いできることを楽しみにしています。

